

土

金子みすゞ

こつつん こつつん

打たれる土は

よい畠はたけになつて

よい麦生むよ。

朝から晩まで

踏まれる土は

よい路みちになつて

車を通すよ。

打たれぬ土は

踏まれぬ土は

いらぬ土か。

いえいえ それは

名のない草の

お宿をするよ

この詩で、みすゞさんは世の中には役に立たないものはない…と教えてくれています。私たちは他のものの命をいただいて生かされています。感謝祭礼拝の時にもお話がありました。自然に生きているのではなく、生かされているのです。

ずいぶん前に、インドでは、母親は子どもに、食べ物をお互いの手で相手に食べさせ合う…ということを知る…と聞いたことがありました。この行為を通して、「それぞれが必ず誰かのために生きている」「役に立たない者はひとりもない」ということを学びます。

人は自然によって生かされていると同時に、他の人々との助け合いによって、生かされていること、命が命を支えて、次の世代につながるということを覚えたいと思います。助け愛です。

1969年に創刊された絵本「こいぬのうんち」

この絵本は韓国の絵本で、うんちの話ですが、とてもいいお話です。

「ぼくは何の役にも立たないのかな、どうしたらいいんだろう…」

ちっぽけで泣き虫のこいぬのうんち。

存在価値を見出せずにいましたが、うんちがこやしになって春にきれいな花を咲かせるのです…

目立たないもの、弱い者に対して優しいが込められている絵本です…

私たちがまた、ひとりひとりが大切な存在。

あなたもわたしもです。

お互いを認めあえる社会でありたいものです。

